

めばえる歌
— 民謡の伝承と創造 —



2017年11月11日(土)

13:30～16:30 (開場12:50)

- ◎ 場 所：国立民族学博物館 講堂
- ◎ 定 員：450名・要事前申込(裏面参照)
- ◎ 参 加 費：無料(要展示観覧券)
- ◎ 主 催：国立民族学博物館

民謡は地域社会の生業や人と自然のつながり、集落の歴史や風俗、風習等を映し出す貴重な無形文化です。映像民族誌『めばえる歌—民謡の伝承と創造—』は徳島県祖谷の民謡、岐阜県郡上のわらべ歌等の伝承と再創造に携わる人びとの活動に着目して制作した作品です。本公演では、本作の上映と出演者である井上博斗氏、松田美緒氏による民謡とわらべ歌の実演をととして、民謡の今日の動態や音楽文化の継承と創造について考えます。また、映像作品の制作手法や制作の舞台裏をテーマにしたトークセッションをおこないます。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

プログラム

13:30	挨拶
13:45	映像民族誌『めばえる歌－民謡の伝承と創造－』の上映
14:45-14:55	休憩
14:55-15:35	井上博斗、松田美緒（ギター伴奏：山口亮二）による歌唱
15:40-16:30	トークセッション

- ◎ 出演：井上博斗、松田美緒、山口亮二
◎ 司会・解説：川瀬慈（国立民族学博物館 准教授）

『めばえる歌－民謡の伝承と創造－』

60分／監督：川瀬慈／撮影、編集：山城大督

地域社会の外部からやってきた歌い手が、地域の伝承歌を単に歌い継ぐだけではなく、自らのやりかたで咀嚼し、新たな生命を与えていく姿に着目し、民謡の伝承と創造活動について考える。井上氏による岐阜県の郡上八幡や揖斐川流域を対象にした『わらべうたの会』の活動、そして松田氏による徳島県三好市祖谷での民謡の歌唱活動と人びととの交流を描く。



松田美緒（まつだみお）

歌手。土地と人びとに息づく音楽のルーツを魂と身体で吸収し表現する“現代の吟遊詩人”。その声には彼女が旅したさまざまな地域の魂が宿っている。大西洋をテーマにブラジルで録音した『アトランティカ』で2005年にビクターよりデビューし、以来ポルトガル、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン、ベネズエラ、ペルー、カーボヴェルデなどポルトガル語・スペイン語圏の国々で、現地を代表する数々のミュージシャンと共演、アルバム制作を重ねる。2014年、3年がかりのライブとフィールドワークの集大成として初のCDブック『クレオール・ニッポン うたの記憶を旅する』を発表。ブラジル・ハワイ移民の歌を含め、日本各地の忘れられた歌を現代に瑞々しく蘇らせた作品は高い反響を呼び、文藝春秋「日本を代表する女性120人」に選ばれる。第2回ヘテロトピア文学賞特別賞を受賞。2016年、日本テレビ系列「NNNドキュメント」で、松田美緒の活動を追ったドキュメンタリーが放送され、同作は2016年度坂田記念ジャーナリズム賞グランプリを受賞。2017年4月にはギリシャ・ポルトガル録音の新作『ELA』を発表。



井上博斗（いのうえひろと）

香川県善通寺市に生まれる。大阪芸術大学卒業。在学中に、音楽家の桃山晴衣・土取利行に出会い、2010年より両氏が主宰する「立光学舎」で学びを深める。土地と人間の関係を音楽で捉え直す「郡上八幡音楽祭」を2013年より実行委員会代表として主催。また、郡上八幡城下町の魅力と可能性を引き出す「町家オイデナーレ」を2015年より企画。同時に、郡上に伝わる白山信仰を背景とする古道の企画開発・編集に携わる。土地の古老から聞き覚えた、郡上のわらべうた・作業唄・踊り唄・祝い唄の伝承がライフワーク。
<https://gujomusicfes.wixsite.com/gujomusicfes2017>

山口亮志（やまぐちりょうじ）ギター

イスラエルで生まれ、幼少期よりギリシャ、メキシコ、日本、エル・サルバドルやアメリカで暮らす。マイアミ大学フロスト音楽院でクラシックギターをレネ・ゴンザレス氏に師事。12弦ギター、ギリシャ・ブズーキ、シンセサイザーギターなども演奏。マイアミ国際ギターコンクール準優勝。ベースはクラシックにあるものの、セファルディ民謡、タンゴ、アイルランド音楽、アフリカ音楽、演劇、能楽師との共演、作・編曲など、活動は多岐に渡る。日本国内をはじめ、アメリカ、ヨーロッパ、ジャマイカ、カーボヴェルデで演奏。アール・チナ・スミス、津村禮次郎、coba、他多数と共演。『月と雪と』を始め、10枚以上のCDに参加。2017年には歌手松田美緒との新作『ELA』がCOREPORTより発売。映画『シネマの天使』ではギター演奏を担当。
ウェブサイト：www.ryojiyamaguchi.com

川瀬慈（国立民族学博物館 人類基礎理論研究部・准教授）

主にエチオピアを中心に、アフリカの音楽文化に関する映像人類学研究に取り組む。人類学、シネマ、アートの交差点から、文化の記録と表現を開拓する。共編著に「アフリカン・ポップス！——文化人類学からみる魅惑の音楽世界」（明石書店）、「フィールド映像術」（古今書院）。映像作品に『ラリベロッチ』『僕らの時代は』『Room 11, Ethiopia Hotel』『精霊の馬』『ザフィマニリス・イルのゆくえ』など。

申込方法

ホームページにある申込フォーム、または往復はがきで受付。（本人を含め2名まで）
※応募多数の場合は抽選となり、締切日以降、順次返信いたします。

往復はがき の場合

10月23日[月] 必着

往復はがきには①氏名（ふりがな）②住所（返信用宛名面にも）③年齢（任意）④電話番号⑤参加希望人数（本人を含め2名まで）⑥「国立民族学博物館友の会」会員番号（会員の方のみ）を明記の上、「11月11日研究公演」と書いて下記までご応募ください。なお、参加申込された方の個人情報は、研究公演にのみ使用いたします。

[宛先] 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号 国立民族学博物館 企画課 博物館事業係

申込フォーム の場合

9月22日[金] 10:00 受付開始 | 10月23日[月] 17:00 受付終了

国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。
申込URL：<https://www.minpaku.ac.jp/museum/event/slp/scform20171111>

往復の宛名面	返信の文面	返信の宛名面	返信の文面
〒565-8511 国立民族学博物館事業係 企画課 博物館事業係 大阪府吹田市千里万博公園10番1号		住所・自分の氏名	①氏名（ふりがな） ②住所 ③年齢（任意） ④電話番号 ⑤参加希望人数 ⑥会員番号（会員の方のみ） 11月11日研究公演

・消しゴムで消えるボールペンや、鉛筆のご使用はお控えください。

みんなく 研究公演 検索

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00～17:00（入館は16:30まで） ●休館日…………… 水曜日（水曜日が祝日の場合は、翌日が休館）

●観覧料…………… 一般420円／高校・大学生250円／中学生以下無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール… 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分
- バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅（エキスポシティ前）」「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園（中央口、西口、北口）窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。 ※小・中学生が自然文化園（有料区域）を通行される場合は、自然文化園（中央口、西口、北口）有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。 ※東口からは、自然文化園（有料区域）を通行せずに来館できます。 ※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園（有料区域）を通行してお帰りの場合は、同園入園料が必要です。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242
www.minpaku.ac.jp/

